

令和7年度 第1回学校協議会 会議録

1 日 時 令和7年7月17日(木) 18時30分

2 場 所 産業高校会議室

3 出席者

(1) 学校協議会委員(50音順 敬称略)

産業高等学校同窓会副会長	北野 好美
日本継手株式会社・総務部長	信貴 政則
岸和田市中学校校長会会長・山直中学校校長	倉垣 裕行

(2) 学校(事務局)

校長	安井 孝
全日制教頭(司会)	齋藤 良房
定時制教頭	榎本 正広
全日制教務部長	高橋 真司
全日制教諭	勝田 菜那
事務長(記録)	橋本 純

欠席者

産業高等学校元PTA会長	赤堀 潔
産業高等学校PTA会長	南 友美

4 次第

1. 校長挨拶

委員への会議出席の謝辞

万博参加、合唱コンクール等の学校行事および、3年生の進路希望状況の紹介

2. 令和7年度協議会委員紹介及び会長選出

出席者自己紹介

会長に信貴委員を選出

3. 会長挨拶

本校は就職希望者への指導がしっかりしており、企業の立場では教育時に助かります。現在、各企業では熱中症対応を厳格化されており、その対応を進めているところ。

4. (1) 自己診断における令和7年度目標設定について

●全日制

・昨年度の学校教育自己診断結果については、一昨年と比較してすべての項目で数字が改善しており、よい傾向と捉えている。すべての項目で80%以上の生徒から肯定的な回答を得ることを目標にして

いる中、生徒指導に関する項目だけが 80%に届かなかったが、これも 66%から 72%に改善している。

今年度についても、すべての項目で 80%以上を達成することを目標として、教育活動に取り組んでいきたい。

●定時制

- ・定時制は、私が着任した 11 年前は 200 名弱の生徒が在籍していたが、今は 50～60 名で推移している。少子化や進路の多様化の影響は大きい、その中でも定時制を志望してくれる生徒がこれだけいるということで、我々も頑張っていきたい。
- ・学校教育自己診断結果については、定時制では生徒からの肯定的な回答が 60%を上回ることを目標に設定してきた。全項目で目標は達成できたが、「学校へ行くのは楽しい」「ホームルーム活動・学校行事への積極的な参加」がやや低め。今年度はこの 2 項目を特に留意して、良い結果が出るように頑張っていきたい。

●質疑応答

(委 員) 先生方の努力が結果として表れていると感じる。定時制の目標も、もっと上げてもいいのでは。

(事務局) 近年は安定しているが、定時制は様々な生徒が来る。目標 8 割以上とできればいいが、年によって変動が大きいのが実情。

(委 員) 全日制の生徒指導の部分は、数字としては目立ってしまう。原因として考えられるところはあるか。

(事務局) 本校では、卒業後に就職する生徒も多い中、即社会人として通用する生徒を育成したいと考えており、身だしなみの指導は厳しめ。そこが厳しすぎるという生徒が一定数いると考えている。時代に応じて、少しずつ時代の流れに沿ったルールに変えており、数字の改善は、それを生徒も受け止めてくれていると感じている。

(委 員) 甘すぎると就職時に本人が苦勞することになるので企業は助かっている。

(委 員) この 11 年間で、定時制の変化はどう見ているか。

(事務局) 生徒が落ち着いてきたと感じている。11 年前は「やんちゃ」な生徒もいたが、今は大人しくなった。やんちゃな生徒はどこへ行ったのかと思う。今は通信制へ行く中学生が多いと聞いているが、そちらに流れたのだろうか。

「学校へ行くのが楽しい」項目は 80%を大きく超える年もあるが、ここの変動が大きい。昨年度減った原因について、まだ分析できていない。

(委 員) 市教委に行き来して以来、産高の定時制の卒業式を見てきたが、最初の頃はなかなか賑やかだった。それから年々様子が変わって、今年は落ち着いた状況で大人な雰囲気だった。以前は公立志向が強く倍率が高かったのも、そこでダメだった生徒が定時制に回るという構図があったが、今は公立志向が弱く、定員割れあるいは倍率が極めて低い状況で、あまり勉強が向いていない生徒も公立に行ける。定時制に行く生徒は、本当に何か意思をもっていたり、向かう方向がはっきりした生徒という印象。

(事務局) 定時制には小中学校で不登校を経験している生徒も多い。それでも毎日登校しなければならない定時制に来るのは「やり直したい」という目的を持って来るのかなと思っている。

(委員) 私立高校や専修学校など進路が多様化し、不登校傾向の子も何らかの形で進む先ができていく。

(事務局) 進学で頑張る生徒もいる。昨年度は現役で近畿大学に合格した生徒もいた。挫折を経験しながらも頑張って、定時制の3年間で上手くやり直せたと感じている。

4. (2) #コウホウブによる新たな広報戦略について

- ・昨年度に#コウホウブという部活動を新たに立ち上げた。商業科、情報科、デザインシステム科とも定員を満たす志願者数を獲得することを目指し、SNSを活用した魅力発信をしている。
- ・ターゲットは中学生および保護者、中学校の先生。リアルタイムな情報発信のツール構築、高校生のナマの声を発信する場の構築、岸和田や泉州地区以外の中学生にも本校を知ってもらうきっかけ作りを目的している。今の部員は1年生5人、2年生4人、3年生1人の計10人で活動している。
- ・きっかけは2年前に全国商業教育指導者研修会に参加し、全国の教員や学校の取り組み、発信力に感銘を受けた。本校でも新カリキュラムで新しくなった授業や、全国大会に出ている部活動、自己診断にもあるように、生徒自身が「楽しい」「特色ある」と思ってくれているが、それをどれだけ発信できているかは疑問。生徒たちが輝いている様子をリアルタイムに中学生や保護者に伝えるツールがあれば、より多くの中学生が興味を持ってくれるのではと思った。
- ・現在、Instagram、TikTok、YouTubeの3つのSNSを運用している。まず生徒が動画の企画、撮影、編集を行い、それを顧問や商業科長、管理職が確認した上でSNSにアップしている。
- ・初回投稿は昨年6月。学校行事の様子や部活動紹介、オープンスクールや体験入学のお知らせ、食堂のメニューや制服の紹介、質問コーナーなどを投稿している。フォロワーや「いいね」の数より再生回数を伸ばすのを目標にしており、1つの動画で1万回再生を目標にしている。中には8万回再生された動画もある。
- ・#コウホウブがどれくらい認知されているかも調査している。現在の1年生を対象にアンケートを取ったところ、8割の生徒が動画をみたことがあると答えてくれた。また、自身の志望校決定の際にSNSを参考にしたという生徒も過半数を占める。#コウホウブの動画を見て、「楽しそう」「明るい」「自由そう」「元気そう」など産業高校に対して肯定的な印象を感じてもらっている。
- ・自分で使うSNSはInstagramだが、#コウホウブの動画を見たのはTikTokという生徒が多い。TikTokのおすすめ機能が効いていると考えられる。大阪市内から通学している生徒が、本校を選んだ理由を「TikTokを見たから」と言ってくれており、近隣の中学生だけでなく広く知ってもらうことも実現してきている。
- ・リアルタイムな情報発信、在校生の「楽しい」という声を届けることができた。近隣以外の中学生にも知ってもらうきっかけにもなった。今後の課題は、授業内容の動画が作りきれない点や、本校の校則を正しく伝えることなどと考えている。

(委員) 8万回再生された動画は、どのような内容だったのか。

(事務局) 食堂のおにぎり紹介だった。卒業生が「懐かしい」というところで見てくれたり、中学生は

食堂のメニューを気にする子が多いようだ。中学生は給食やお弁当なので、食堂に憧れがあるように思う。

(委 員) おにぎりバズるのは、普段から食べ物に関心があって、その関連でおすすめにあがるのでは。関連性で言えば、例えば校外学習としてだんじり会館や岸和田城を生徒と一緒に回することで、だんじりというキーワードや、歴史好きな中学生なら「お城」で飛んで来るかも。他にも生徒に訊いて欲しいが、泉州地域で唯一というものを取り上げてもらえれば。

(事務局) 岸和田市立の高校ということで、岸和田市の観光を取り上げるのは授業の1つになり得る。

(委 員) 今の中学生は、Instagram と TikTok の利用が多い。中学生に面接練習していると「行事が楽しそう」「盛り上がる」「先輩が楽しいと言っていた」を志望動機に挙げる生徒がとても多いので、それがポイントになる。

再生回数を増やすということであれば、産高生の中にも個人的に SNS による発信ができている生徒がいると思う。そんな生徒に出てもらう、あるいは卒業生の方で活躍している人に出てもらう。子ども達に1度引っかけるとヨコに広がっていくので、そういうことを考えてもいいのかなと。

(委 員) 会社の従業員にも産高生の親がいるが、先日の合唱コンクールに大変感動していた。中学生の親世代を捉えるには、ああいうのがいいのかも。

(事務局) 本日は、いいヒントをいただけたと思う。

19時25分終了

※次回は2学期後半に開催予定